



「誰にでもできることを、誰にもできないぐらいに続ける」

校長 中村 理明

早いもので、年の締めくくりの月「師走」を迎えます。今年も、保護者・地域の皆様に支えられながら、様々な取組を進めることができました。心よりお礼申し上げます。今年一年を振り返ってみても、社会の在り方が急激に変化する中で、学校では、新しい学びの在り方を模索しながら、歩みを進めてまいりました。しかし、一方では、これまで変わることなく大切にされてきたことに、地道に取り組み続けることも重要だと考えます。

そのような中で、子供たちには、『凡事徹底(ぼんじてっい)』、つまり、「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと」の大切さを、しっかりと伝えていきます。松下幸之助や鍵山秀三郎といった大企業の創業者たちが、揃ってこの言葉を用いて、『誰にでもできることを、誰にもできないぐらいに続ける』ことの大切さを繰り返し話してきました。

まず、『誰にでもできること』とは、特別な能力や技術などは必要なく、本人がやろうと思えばすぐにできることです。「あいさつ」「返事」「くつをそろえる」「笑顔」「時間を守る」などが挙げられます。次に、『誰にもできないぐらいに』とは、欠かさず、例外なくということです。一つ一つの行いは、「すごいこと」でなくてもいいのです。ここで身に付けた「続ける習慣」や「必ず行う姿勢」というのが、生きていく上で強固な支えとなり、「続けられた自分」に対する自信にもつながっていきます。

野球界のレジェンドであるイチロー選手が、インタビューの中で、「今までに、これだけはやったな、と言える練習は？」と聞かれ、「僕は、一日たったの10分ですが、寝る前に必ず素振りをしてきました。1年間365日、これまで欠かしたことはありません。」と答えています。そして、「小さな積み重ねが、とんでもない所へつながる道でした。」という名言を残しています。

また、令和5年(2013年)全国高校野球選手権大会で、初出場初優勝を飾り話題となった前橋育英高校の荒井直樹監督は、当時、「選手たちは、毎朝、散歩しながら15分間ゴミ拾いをしています。今年は、それがきちんとできるチームです。本物というのは、そういう平凡なことも、しっかりと積み重ねることができるとだと思います。」と話していました。

子供たちは、恵まれた環境や生まれながらの才能のようなものがなければ、特別な存在にはなれないのではないかと、不安に感じているかもしれません。しかし、実際に社会で活躍している多くの著名人たちが、「誰にでもできる簡単なことも、決して、おろそかにはしないこと。そんな姿勢の積み重ねが、成功や幸せにつながっていく。」と話しています。そのような積み重ねによって身に付いた力が、社会で活躍する「人間力」となり、豊かな生活を営む「生きる力」となるはずで



これまでも大切にされてきた、本校の「当たり前のことを当たり前」にできる」という良き学校風土を、今後も保護者・地域の皆様と共に継承してまいります。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

「ひまらや展覧会について」

特別活動部

11月22(金)・23日(土)の「ひまらや展覧会」は、多くの保護者、地域の皆様にご観覧いただき、鑑賞カードやアンケートを通して温かい励ましの言葉をたくさんいただきました。ありがとうございました。子供たちは4月から作品を制作してきました。

展覧会は子供たちにとって、全学年の作品を一斉に見ることができる貴重な機会です。そこで、今年の展覧会は、学年ごとの鑑賞とにこにこ活動グループでの鑑賞と児童鑑賞を2回行い、お手紙形式の鑑賞カードで互いに気持ちを伝え合う活動を行いました。子供たちは予想以上の枚数のカードを書いて送り合い、よさをたくさん見つけられた充実した時間になりました。にこにこ活動のグループでの鑑賞では、上学年の子供たちは、優しく寄り添いながら、下学年の子供たちは、お兄さんお姉さんを見上げながら作品の美しさに感動する姿も見られました。造形活動を通して子供たちの今後の成長を見守っていきたいと思います。

